

同じ熟語で音読み・訓読み

友人が、あまり人気のない地を旅したとき、「何人も入るべからず」という古めかしい看板が、崖の手前の柵にあった。それにもかかわらず、中学生たちが、ひとりずつ交代で入り、写真を撮っていた。

確かに何人かまとめてではなく、ひとりずつだが、危険なので、この場合、「何人も」は「なんにんも」ではなく「なんぴとも／なにびとも」と読み、「いかなる人も柵の中に入ってはいけない」という意味だと注意した。「自分も歳で、おせっかいになった」と苦笑しながら話してくれた。

「危険！立ち入り禁止」であれば中学生にも分かりやすかったのだろう。

しばらく歩くと、広い牧場があったようだ。「大きな牧場だな」と思っていたところ、小学生の団体から「♪おお牧場は緑～」の歌声が聞こえてきたという。

その話から同じ熟語でも複数の読みがあること、特に音訓2種類の読みがあることに興味を覚えた。

すぐに思いついたのが「市場」「今日」「明日」。そのほか、「月末」「国境」「罪人」「色紙」「足跡」「頭数」「人気」「年月」など、数多くあるが、熟語によって性質が異なるようだ。

「色紙」「人気」などは、まったく別の意味。

「明日」「罪人」などは、ほぼ同じ。それに対して、「市場」「牧場」などは、意味合いが微妙に異なる感じがする。

「牧場」について、意味の違いを『大辞林第3版』で調べてみた。

「牧場」は、牛や馬などを生産・育成する設備を備えた所。まきは。とあり、「牧場」は、柵などで囲い、牛や馬などを放し飼いにしておく所。ぼくじょう。と記されていた。

筆者個人は、音読みの「ボクジョウ」は、牛の場合、搾乳機があり、工場のように牛乳を生産しているという印象。

一方、訓読みの「まきは」は、草原が広がり、牛や馬や羊がのんびりと草を食べているという景色が目に見える。

そういえば「草原」も「ソウゲン」「くさはら」の、音読みと訓読みがある。

「草原」は広々としていて、可憐な花が咲き、鳥の鳴き声がかかっている感じ。

「くさはら」は、雑草が生い茂り、入るとズボンが汚れそうな感じがする。

同じ漢字の熟語でも、音読みと訓読みの違いで、意味や語感・印象が変わる。

ところで新年。1年の無事を願って拝むのは初日、そして、まもなく迎えるのは、大相撲初場所の初日である。

坂本 充（さかもと みつる）